

## 第2回まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

日 時	: 平成27年7月28日(火) 19:00~20:30
場 所	: 社会福祉センター
テーマ	: 結婚・出産・子育て
参加者	: 16名(それぞれの分野で活躍している若手のかたと市職員)

### 1. 話題提供

資料を基に話題提供

### 2. 意見交換

司会者: 商工会でされている婚活パーティーの状況をお聞かせください。

参加者: 商工会青年部の方では、カップリングパーティーを年間で2~3回しています。会員が少なくなってきた、市と連携してやっています。1回男女20人ずつで、カップルになった数は一昨年から30件~40件ぐらいです。一般募集や知り合いを呼んだりしてやっています。

司会者: 自分から手を挙げて参加する人は多いですか。それとも、親が申し込むとかありますか。

参加者: 親はまったくないです。男性が多い場合や女性が多い場合もあり、回によって波があります。男性は湖南省在住の25歳以上の男性で、女性も冷やかしなしという事でやっています。成果もあります。

司会者: 商工会はそういう形でやっていこうという感じですか。

参加者: 一定の結果も出ているので、続けていった方がいい事業だと思っています。

司会者: 「カップリングパーティー」というと入りにくい感じがするので、「友活パーティー」という友達をつくる、というのから入ったら、という意見もありました。

参加者: 今は「まち婚」という言葉を使ったりしています。

司会者: そういう活動とか、考えていただいてもいいかなと思います。婚活というとネ

ーミング的に引く人もいますね。

参加者： ガツガツ感があって、パーティーに来ないです。

司会者： 人口減少の一つに子どもが生まれてこないということがあります。それで、結婚、出産のサポートが必要ということで、このテーマがあります。ご意見をください。例えば、子育てサークルの皆さんは、お子さんともふれあえるし、お母さんともふれあえる中で悩んでいる部分の話がありますか。

参加者： 直接、親子で楽しく過ごす時間を設けているので、その後で、お母さんと直接話をする時間はありません。お母さん同士の話を聞いていると、子ども同士を遊ばせるというのもあるが、お母さん同士の横のつながりを楽しみに来ている。終わっても話をしていたり、新しい友達ができる場にもなっています。卒業生のお母さんたちが新しいボランティアグループをつくって一緒に活動するようにつながっていったり、子どもたち同士も保育園で一緒になって、子ども同士もつながっています。皆さん、楽しみにして来ます。

司会者： スタイル的には、三雲の子育てボランティアグループも同じような取り組みですか、違うのですか。

参加者： 基本的には同じだと思います。

司会者： お母さんのつながりができているのですか。

参加者： 子育てサークルですが、お母さんも孤独にならないように、という点もあります。

司会者： 参加されている方は核家族のかたが多いのですか。仕事はされてないかたが多いのですか。

参加者： あまり詳しいことは聞いていません。

司会者： 利用者は何人ぐらいですか。

参加者： 立ち上げたときから続いていまして、26人でしたが、20名になりました。

司会者： PR しなくても入ってくるのですか。

参加者： 1年単位で3月末に募集して、4月から月1回の親子のサークル活動をしています。

司会者： 男性の育児、家事への参画促進というところで、イクメンという話もあるかなと思いますが、ご自身の経験も踏まえて育児のかかわりはどんな感じですか。

参加者： 男性も育児休業が取れる制度はありますが、どうしても女性のみになってますね。

司会者： 男性はなぜ、こういう制度があるのに取らないのでしょうか。

参加者： 周りが取ってない、実例がないので取りにくいです。

司会者： 市役所は実例がありますか。

参加者： 10年ぐらい前はありました。

司会者： 結局みんなが取れば取りやすいのかなと思います。私は子どもが小さいときは妻が仕事をしていなかったので、収入がシングルだとつらいかなと。子どもが大きくなって中学校ぐらいになってから、正職で仕事に行き始めました。

参加者： 働く女性の立場からいうと、男性も女性も一緒に取れるのならいいのですが、せっかく出産したので1年ぐらい休みたいと思いました。1年しか休めないと思うから、家にいて子育てするのが楽しかった。でも、それがずっと続くと思うときっと嫌になったと思います。

司会者： では、夫が「僕が取る」となると、けんかですね。育児休暇は1年でしたか。

参加者： 今は3年まで取れます。給料がでなかったり、手当は少ないです。あまり長く休むと専門職の人はいいですが、制度が変わったり、職場の環境が変わったりするので、私は1年でよかったです。

参加者： 周りの応援があれば、1年間にしようかなと思いましたか。

参加者： 3人産んだので、3回取らせてもらったのですが、3人目はこれが最後かなと思って長く取らせてもらいました。そうすると、自分に収入があつての生活をしていたということもあるので経済的な面のこともあるし、私はあまり家事に向いてないので。

参加者： 違う同僚からは「本当はもう1年取りたいけど仕事のことが心配で復帰したわ」という人がいたので、そこら辺りをバックアップする支援や周りがカバーすると、どう変わるのか、というのが今のテーマですね。

司会者： 職場の環境によって休みが取りにくい状況もあるでしょうし。いつでも休んでいいよ、という職場の環境づくりが大事だと思います。

○○さんは、結婚されたばかりで、これから子育てというステップにいかれると思いますが、会社づとめをされていますか。子どもができるとどうされる予定ですか。

参加者： 幼稚園に入れるまでは仕事はしないでおこうかな、という話はしています。

司会者： 子どもができたらいったん辞めるということですか。

参加者： それしかないかなと思います。3年は休みたいのですが、小さい会社は1年ぐらいしか休めないですね。

司会者： 会社の条件とかも影響されますか。

参加者： そうです。

参加者： 資格を持っておかないと、と思います。再就職をしやすいように。

司会者： 資格を持つということですか。

参加者： そうでないと、再就職したくてもできないので。

司会者： 女性の再就職はきびしいですか。

参加者： きびしいですね。子どもがいると余計にきびしいですね。急に休めないし。

司会者： 結婚、出産についてのご意見をいただければありがたいのですが。

参加者： 結婚について思ったのですが、僕は学校の教師をしているので、同窓会によく呼ばれます。同窓会や成人式で久しぶりに出会って結婚をする人もいます。大学や職場で出会っての結婚もありますが、出会いを公の場で設定してもらっているから、安心感を持って参加できると思います。そういう企画が必要なのかなと思います。

同窓会は知っている人ばかりで安心感がありますので、結婚する人が思ったよりいるのだと感じました。ですから、同窓会をもっと開きやすくするのも手かなと思います。

司会者： 同窓会の代行業がありますね。

参加者： あと、湖南省に独身寮がありますね。そういうところに声をかけたらどうか。若い人もたくさんいるし、友達がいると参加しやすいかなと思います。

司会者： 今の若い人は、カップリングパーティーなどで出会うと、LINEなどで連絡をとりあって、スマートな交際から始まる、という感じで、出会いの場の提供が大事だということですね。

次は、出産・子育ての各種支援の充実ということで、夜間保育など、子育て環境の充実とかで感じたことがあれば、教えてください。

学童保育の充実、地域ぐるみの子育て環境の確立でもいいです。地域ぐるみというところでは、サークルボランティアをいただいているのが、この辺りに入るのかなと思います。

参加者： この出産の各種支援ということで、妊婦健診が無料になるクーポンというか補助券を市からもらえるのですか。

参加者： 妊婦の基本健診の受診券が14回分、それプラス血液検査の券や超音波の券とか子宮頸（けい）がんなどの基本的なものをセットして支援しています。

参加者： その券は、出産までほとんど無料で検査や健診が受けられるようなものですか。湖南省がそこまで補ってくれたら。

司会者： もう一人産もうかなということですか。私もよく分からないのですが、14回の健診券などの基本セットでは補えない診察もあるのですか。

参加者： 基本的な健診の回数は 14 回です。ただ、体調など変化などで何度も行ったり、早く産まれたら 14 回も使われない。平均したら 14 回ぐらいだと思います。

司会者： それでも個人負担がある場合もあるのですか。

参加者： 多少はあります。

司会者： 私は子どもが 2 人ですが、3 人目、4 人目を産もうか、というのはどこで決まるのですかね。子どもにはお金がかかるということで、所得で決まるのか。周りが 2 人だから 2 人でいいわという感じなのか。そのあたりは皆さん、どんな感じですか。

参加者： 私は子ども 1 人です。仕事の影響が一番大きいです。2 人目、3 人目を考えたら、私も妻も仕事を頑張りたい時期と重なった、ということが大きかったです。経済的な面もありますが、それよりも自分の仕事のことを考えてしまったからです。

司会者： もう 1 人産もうかということはなかったのですね。

参加者： 子どもは 2 人いますが、仕事をしていて、毎日、毎日が精いっぱい、三人目の子どもは難しいかなと思っています。一般的には、保育園入園や小学校 1 年生の壁があります。

特に女性が働き続けるというのが非常に大変で、会社にいろんな制度はあるのですが、実際に使うのは難しい。保育園に入っても初めの 1 ヶ月は、風邪を引いたり、何かの病気になったりします。その間、誰がみるのか。私の場合は、近くに両親がいて、私も何とか休める職場だったのですが、それが全ての人に当てはまるかというと難しいです。また、病児保育や学童は必要です。子どもを 1 人で置いて外で遊ばせておいたらいいわ、という時代ではありません。社会の責任で子どもをみていくのも大事かなと思います。

人口減少を食い止めていこうということで、大きい政策はもちろんだが、自分の子どもがいったん外に出て経験しても、また、戻って来て子育てできるようなまちであってほしいかなと思っています。女性も働き続けられることが基本になってくるかなと思っています。

司会者： 今は学童の運営をされているのですか。

参加者： 湖南省の学童保育は、保護者運営ということで、行事のお手伝いではなくて、先生の雇用から、管理センターの確保、社会保険のことや、そういった日々のことすべて保護者がやるということもあります。そういったことを続けながら同時に仕事をやっていくということはきびしいと、個人的に思います。

司会者： 例えば、学童には入れたいが、自分が運営する側に回らなければいけないから入れにくい、というところはあるですか。

参加者： 実際に保護者さんの中には、それを嫌がっていったん入るけどすぐ辞める人もいます。そういう状況ですと、みていただく先生の雇用は不安定な状況で先生も定着しないです。そういう制度的なものも、今後は考えていかなければいけないと思います。

参加者： 今は、元気な高齢者の人が多い。その人たちが、学童の支援員として行くのは、違う話なのかもしれませんが、ものづくりや植物を育てるのもいいので、放課後、学校帰りにまちづくりセンターに行って、ボランティアをやるとか。塾に行く子はたくさんいると思いますが、センターに行けば、高齢者が何か教えてくれるとかになれば、それが高齢者の生きがいになって一石二鳥だと思います。

司会者： どの地域でも団塊世代の元気なお年寄りはおられますが、自分の趣味を熱心におられるかたも多くて、そういうボランティア精神で学童の応援にいくとか、まちづくりセンターに子どもを集めて何かしようか、という人はなかなか出てきていただけないのが現状なのかなと思っています。そういう人材の発掘も大事なのかなと思っています。

参加者： 10年前に老人クラブに学童の本部を置かないか、ということがありましたが、反応がなかったです。市役所の担当もそういうことは言わないと思います。昼間は空いていて、高齢者が活動をしていて、そこに子どもが帰って来たら一番いいのではないかなと思っていたのですけど。

司会者： コミュニティスクールで、高齢者と子どもたちの関わりはどんな感じですか。

参加者： コミュニティスクールの中で、学校支援事業で、授業のお手伝いとか、ボランティアで来ていただいているとは聞いていますが、放課後はきびしいと聞いています。学校の体制としても、先生たちは部活動の指導とか、生徒指導の対応に追われて、そこに教員が時間を割けるかというところも人的にもきびしいです。

司会者： ポイントは人が増えるということで考えれば、3人目を産むかどうか、と思うには、環境とか制度でも何でもいいですが、どうしたらいいと思いますか。

参加者： 2人子どもがいますが、PTAの役が回ってきたり自分の仕事も遅くなったり、夫は11時ぐらいに帰ってきて、母子家庭状態で毎日回している状態で、3人というのは私の体ももたないし、経済的にもきびしいと思います。私は幸い働き続けることができているのですが、周囲のママ友は、ほぼパートに出ています。幼稚園に上がるまでは家にいたいという気持ちをお持ちのかたもいるし、その時期に家にいて仕事があるか、というかたもおられます。それで、子育てが落ち着いて本腰を入れたい40歳前後になると再就職先がない、という状態です。

参加者： 人によっては、3人目になると異なってくると感じます。うちは39歳で初めての子どもが産まれて双子だったので、2人います。今やっと3歳になりましたが、3人目はこの年では難しい。だから、早く結婚して出産するのがいいとは思いますが、それでは、個人の時間や仕事、趣味などの折り合いで、夫婦や個人間の悩みは出てくるかと思っています。

あとは、子育てで保育園、幼稚園を選択されるかたはいろいろありますが、3年はうちでみて、3年後には幼稚園かどこかに預ける。あるいは、1年後には働きたいという人の受け皿を整備していくことは行政のテーマになっています。3年間、家での子育てが楽しいと思えるまちは、親としても職場で働く者としても、大切な条件になってくると思います。何ができるということになると、ない知恵を振り絞って考えている最中です。

参加者： 子どもが生まれても、安心して預けられるところがあれば、働き続けられますね。これは3人目を産むということにおいても、大事なポイントだと思います。ヤクルトさんは預けるところを探さなくてもいいというので、人気がある企業の一つです。また、息子の奥さんは、病院にも託児はありますが、5ヶ月から保育所に預けています。でも、いつでも病院の託児も預けられるので、急に病気になっても安心して働けます。

司会者： なぜ、3人目にこだわるかという点、先進国はどこでも子どもが少なくなっていますが、フランスが1.97ぐらいまで戻しています。それは、3人目を優遇する措置をとったからだと言われています。ですから、子どもを3人持つことは人口減少に歯止めをかけるには大切で、何かアイデアがないかと思っています。



参加者： フランスが子どもを3人産めば優遇措置をして人口が増えたといわれましたが、フランスは婚外子でも平等な施策が受けられるというのが一つ大きな原因です。婚姻に頼らない出産がベースにあって3人目を産む。プラス、西洋のかたでは、カップルでいることが当たり前で、1人でいると、おかしい人だと思われることが多いお国柄と聞きました。ですから、日本に通じるやり方かと言われると難しいと思います。

ただ、独身の方でも、産めるものなら1人でも産みたいと思っている人がたくさんいると思います。しかし、職場でどなたかが産休に入ると、カバーするのは、大抵が独身か結婚している男性です。となると、仕事が増えプライベートな時間がなくなる分だけ、出会いの機会が少なくなる。さらに、介護も加わると、周囲に負担のかからない働き方を見つけていかないと、一番のしわ寄せが若い人にき続けると思います。

参加者： 旦那は要らないけど、子どもはほしい、という人は多いのですか。

参加者： 多いと思います。そういうパワフルな人はいますが、相手をみつけにいくまでの労力はかけない。

司会者： 制度的な問題もたくさんあるかと思いますが、ほかにアイデアはありませんか。

参加者： 湖南省には不妊治療の補助はあるのですか。私は不妊治療で2人の子どもを授かりました。不妊治療は、お金も時間もかかります。ですから、3人目は考えられません。また、職場でも不妊治療に行かれるかたがおられて、私と同様です。湖南省で不妊治療の補助があれば、少しは違ってくるかなと思います。

参加者： そういうサポートは必要だと思います。

参加者： 私は3人います。おじいちゃん、おばあちゃんと同居していて、小さいころから保育園に預けなくても、おばあちゃんがみると言ってくれました。住むところも結構広いので、3人いてもそれぞれ部屋をあげられる。家のチラシの間取りを見ても子ども2人の設定なので、大変だなと思います。

子ども1人に対するお金のかけ方も違います。一人っ子は海外旅行に行ったりとか、いろんなところに連れて行ってもらえる。また、子ども3人いて中学生になると、3人のスケジュールがあわなくて、旅行に行くにも一苦労です。私は3人はいてよかったなと思いますが、ある程度の条件がそろわないときびしいと思います。

参加者： 極端な話では、フランスでは3人目はお金がかからない感じで、補助金がもらえる感じでやっていると思います。

参加者： これからは、自分の子、よその子ではなくて、親同士4人一緒になって、自分の子も人の子も育てていかなければいけないのかなと思います。また、3人目ができたとき、やはり学資のことを心配しました。制度で1ヶ月に5,000円もらえて喜んだのに、6ヶ月ぐらいでスパッとなくなりなした。やはり、どんな時代も制度もあてにならない、自分が頑張らないといけない。人口が少ない分だけ3倍の力を出さないといけないと思います。

司会者： コミュニティの力で子どもを育てるということですね。

参加者： 僕は0歳と2歳の子どもがいます。子どもは3人ほしいと思っています。僕は結婚する前に「2人も3人も一緒だ。2人の大変さを分かったら3人目はなんとかなる」と言われたのですが、今の話を聞いて心が折れそうです。妻と共働きで、同居でも親も働いているので、誰かがいつも面倒をみってくれる、というわけではないのです。妻にも、「3人子どもがほしいなら、もうちょっとしっかりしなさい」と言われています。

司会者： 本日は貴重な意見をいただき、ありがとうございました。これで終わります。